

令和3年度 第2回大磯町総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和3年12月21日（火）
開会時間 午前10時00分
閉会時間 午前11時40分
2. 場 所 大磯町保健センター研修室
3. 構成員 中 崎 久 雄 町長
熊 澤 久 教育長
濱 谷 海 八 教育長職務代理
曾 田 成 則 教育委員
トーリー 二 葉 教育委員
末 續 慎 吾 教育委員（欠席 ビデオメッセージあり）
4. 事務局 佐 野 慎 治 政策総務部長
小 林 英 文 政策課長
宮 代 雅 之 政策課政策係長
富 塚 恵理子 政策課主任主事
大 槻 直 行 教育部長
波多野 昭 雄 学校教育課長
添 田 健 学校教育課主幹兼教育指導係長
5. 傍聴人 7人
6. 議 題
協議事項
(1) 「コロナ禍における学校教育の在り方について」の協議内容のまとめの報告について
(2) 教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～
(3) 児童生徒の事故等の状況について【非公開】
※ 協議事項「(3) 児童生徒の事故等の状況について」は非公開にて協議を行ったため、議事録を削除しています。

7. 会議概要

【開会】

政策係長) ただ今から、令和3年度第2回大磯町総合教育会議を始めさせていただきます。

本日の司会を務めさせていただきます、政策総務部政策課の宮代でございます。よろしくお願いいたします。

総合教育会議は、原則、公開での開催となります。ただし、本日の協議事項(3)「児童生徒の事故等の状況について」につきましては、個人情報等の保護の観点から、非公開とさせていただきます。協議事項(2)「教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～」の協議が終了し次第、傍聴されている皆さんにつきましては、退出していただきますので、あらかじめご了承ください。

それでは始めに、中崎町長からご挨拶申し上げます。中崎町長、よろしくお願いいたします。

【中崎町長挨拶】

中崎町長) おはようございます。

本日は、お忙しい中、令和3年度第2回大磯町総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。会議に先立ちまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

今年も残りわずかとなり、今年を振り返りますと、やはり昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症のことが真っ先に頭に浮かびます。5月より町保健センターと国府小学校で新型コロナワクチンの集団接種と町内の医療機関での個別接種を開始し、できるだけ早く住民の方々に安心していただくため、医師会の先生の協力のほか、町の協力の呼びかけに应运いただいた多くの医師や看護師の方たちの協力もあり、11月には希望するほぼ全員の方の接種を行うことができました。新型コロナウイルス感染症については、夏を過ぎ感染者数が減少し人々の生活も少しずつではありますが平静を取り戻しつつありました。しかし、ここにきて新たな変異株であるオミクロン株の流行が懸念されており、まだまだ油断できない状況が続いております。皆さんにおかれましても、防疫体制をしっかりとご理解いただき、お身体にお気をつけてお過ごしいただければと思います。

さて、本日の総合教育会議は、「教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～」をテーマとし、皆さんのご意見、想いを聞かせていただければと思います。また、今年度第1回目の総合教育会議で協議していただきました「コロナ禍における学校教育の在り方について」に関しては、皆さんにいただいたご意見を事務局で取りまとめましたので、報告させていただきます。

年末のお忙しい中、皆さんにお集まりいただきまして大変恐縮ではありますが、できるだけ効率よく短い時間で取りまとめていきたいと思っております。そして、有意義な会議となりますよう、ご協力をお願いいたします。

以上で、私からの挨拶とさせていただきます。

政策係長) 中崎町長、ありがとうございました。

それでは、議事に移らせていただきます。議事の進行は、大磯町総合教育会議要綱第4条第1項の規定により「町長が議長となる」とされていますので、議事の進行につきましては、中崎町長にお願いしたいと思っております。

中崎町長、よろしくお願ひいたします。

【協議事項(1) 「コロナ禍における学校教育の在り方について」の協議内容のまとめの報告について】

中崎町長) 議長を務めさせていただきます。

まず、事務局から令和3年度第1回の総合教育会議での協議内容の振返りと本日の総合教育会議における協議の内容について、資料を用意させていただきましたので、簡単に説明させていただきます、その後、協議事項に入りたいと思っております。

事務局、よろしくお願ひします。

政策課長) 政策課の小林です。よろしくお願ひいたします。

資料1及びパワーポイントに基づき、令和3年度第1回総合教育会議の振返りと、本日の協議内容を、簡単に説明させていただきます。

それでは、パワーポイントを中心に説明をさせていただきます。お手元には、パワーポイントと同じ資料を用意させていただきましたので、どちらかをご覧いただきたいと思っております。

まず、令和3年度第1回総合教育会議の振返りでございます。

令和3年度の第1回総合教育会議においては、「コロナ禍における学校教育の在り方について」をテーマとして、皆さんに協議していただき、ご意見をいただきました。背景としては、新型コロナウイルス感染症の影響による、学校の休業、行事等の中止や変更、教育のニューノーマルへの適応で、そのような状況であっても学びを止めないためになど、が懸念されております。これらを踏まえまして、皆さんからいただきましたご意見については、4つの項目にまとめさせていただきます。

協議いただいた委員皆さんからの意見の1つ目は、コミュニティ・スクールのスピード感を持った実現です。

ここでは、子どもたちが厳しい社会に出ていくため、教員の負担を増やさずにGIGAスクール構想を加速させるためなど、今後の教育シーンには学校だけでなく、地域との連携が必要とのご意見をいただきました。

2つ目は、コロナ禍における若者の抛り所です。

ここでは、いままでは当たり前であった人と会うことが、コロナ禍により難しい世の中になっていること、コロナやそれだけでない要因もあろうかと思っておりますが、引きこもってしまう若者も増え、その子たちとの向き合い方などから、コロナ禍における人と人との向き合い方を考えていく必要があるとのご意見をいただきました。

3つ目は、オンライン授業のやり方や子どもたちへの精神的ケアについてです。

ここでは、昨年は全国一斉休校となり、学校や子ども、親も戸惑うこととなりました。先行きの見えないコロナ禍ではいつ休校になるかもしれないとのことから、いざという時のシミュレーションをしたら良いのではないかと、その一つとして定期的にオンライン授業を実施したら良いのではないかという意見、またコロナの影響により友達とのつながりなど、対面の大切な部分、外せない部分が叶わないこともあり、精神的なケアやフォローが必要ではないかと、とのご意見をいただきました。

4つ目は、タブレット端末を使った大磯町ならではの学び方についてです。

ここでは、教育で人が呼べるようなまちづくりをしてほしいということ、また一人1台のタブレット端末を高価なものだからと使用を制限するのではなく、文房具のように毎日のように使ってもらふこと、そのような環境を作り、子どもたちが自ら学んでもらいたいとのご意見をいただきました。

その他の意見としまして、オンライン授業の導入もあるが、基本的には対面が教育の根本であると思う。ニューノーマルな教育への対応として、ICT支援員の配置、環境設定の確保が必要。ICT教育は親の関心も高く、町の魅力度を測る項目にもなっている。コロナ禍だからこそ、発想を転換していくことを受け止め、議論をしていく必要がある。

以上が、令和3年度の第1回総合教育会議において「コロナ禍における学校教育の在り方について」をテーマとして協議いただいた内容をまとめさせていただいたものになります。

中崎町長) 第1回のテーマであります「コロナ禍における学校教育の在り方について」をまとめたものが、資料1となります。本日はこれをさらに積み上げ、教員の働き方、デジタル化に対応するには先生たちに何が必要か、次のステップにどのように進んでいくのかということをも第2回の協議事項として、事務局より説明させていただきます。

【協議事項(2) 教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～】

政策課長) それでは、協議事項(2)についてご説明いたします。ここからはパワーポイントと、参考資料としてパワーポイントを紙ベースで配布したもので説明させていただきます。

第2回総合教育会議については、いま報告させていただきました第1回総合教育会議で「コロナ禍における学校教育の在り方について」の内容と重なるところもあり、コロナをきっかけとしてGIGAスクール構想の前倒しにより一人1台のタブレット端末が配布され、今後はICTを活用した教育の導入が必要になっていきます。社会全体もデジタル化に進んでいく中で、子どもたちがデジタルに対応していくための教育も必要となり、そのためには教員、教育現場においてデジタル化へ対応できるようになる必要性が生じてきます。また、子どもたちにとっても学校での授業の仕方や、ICTを活用した教育が個々の子どもたちにどのように影響するのか、社会のデジタル化が教育現場にとって、また教員と子ども双方にとっても大きな転換期とも言えます。

そこで、令和3年度第2回総合教育会議のテーマについては「教員の働き方改革について

～教育のデジタル化に対応するには～」をテーマに協議していきたいと思います。

これからのICTを活用した教育については、これまでの教育において実践されてきたものの蓄積にICTを掛け合わせることで、学習活動を一層充実させ、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善につなげていきます。

そして、目指すべき次世代の学校・教育現場として、「個別に最適で効果的な学びや支援」として、いわゆる個々の子どもの状況を客観的・継続的に把握できる。次に「学びにおける時間・距離などの制約を取り払う」として、オンライン授業などの実践が図られる。次に「校務の効率化」として学校における事務を迅速かつ便利、効率的に行える。次に「学びの知見の共有と生成」として、教師のこれまでの経験値と科学的視点のベストミックスができるといったことがあります。

続きまして、「教員は子どもたちにどのような大人になってもらいたいのか」ですが、ICTを活用した教育はあくまで手段であり、目的ではないと言えます。将来、子どもたちが豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していくことが必要であり、その際、子どもたちがICTを適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなど情報活用能力を育成していくことも必要と思われまます。

そこで、今回のテーマである「教員の働き方改革について ～教育のデジタル化に対応するには～」です。教育現場では、スケジュール管理や各種調査などにおいて、タブレット端末を活用することで効率化につながると思われまます。

また、ICTの活用により教材作成等の準備にかかる時間や労力の削減につながるとともに、保護者との情報伝達において効率化を図ることができると思われまます。

様々なことでICTの活用により効率化が図られ、その分の時間が別のことに使えることとなります。しかしながら、教員においてはもともと長時間労働も問題もあり、必ずしも時間に余裕ができるとは言い切れない部分があるのかもしれない。

以上のことから、本日の第2回総合教育会議の協議事項としては、ICTを活用した教育の導入により、今後の教員に何ができるのか。例えば、教員のICT活用指導力が向上するため研修等を強化することか。効率化により生み出された時間を子どもたちへの指導等に充てられるか。個々の子どもに応じたよりきめ細かな指導の実践はどうしたらよいか。ICTを活用してスポーツや文化においても専門家の指導など導入が考えられるか。などを例として挙げさせていただきます。

以上の協議事項につきまして、委員皆さんから様々なご意見、また想いというものもあろうかと思われまますので、皆さんのお立場から率直なご意見をいただければと思われまます。

教育のデジタル化が進む環境であっても、家庭、学校は地域の中にあり、互いの信頼で結ばれていることを大切にして子どもたちの教育を見守っていく必要があります。簡単ではありませんが、前回の会議の振り返りと、本日の協議内容についての説明は以上です。

中崎町長) ありがとうございます。

事務局から説明のありました協議事項につきまして、先生方よりご意見をいただきたいと思
います。まず、職務代理の濱谷先生からお話をしていただきたいと思
います。

よろしくをお願いします。

濱谷教育長職務代理) 今回、教員の働き方改革という重いテーマであると考えております。

先日、教育委員会に電話して、大磯町の教育改革がどういう進捗状況であるかお聞きしまし
た。その中で、先生たちの出勤退勤の管理はパソコンで行っているとのことでした。小学校の
先生の勤務状況が厳しいとよく聞きます。約半数の小学校が、1週間に26コマ以上の授業があ
り、10教科近くも担当しています。もちろんその準備も必要です。学習指導要領の改訂により、
英語も教科に入ってきているうえに、プログラミング教育もしていく必要がある状況です。小
学校高学年から教科担任制も議論されています。さらに、GIGAスクール構想の前倒しにより、
一人1台のタブレット端末が配られている状況にあります。

では、大磯町はどのような議論をしてきたのか確認すると、小学校の持ち時間を聞くと平均
22～23コマで、中学校は平均20コマ近くということでした。簡素化して効率的にしていこうと
考えたとき、スクールサポートスタッフが導入されており、週に15時間、つまり1週間に3～
4日導入されているとのことでした。業務内容は、印刷・掲示物の手伝い、成績入力作業を複
数で確認しながら、また、コロナ禍における消毒作業などにご協力いただいているとのこと
でした。この状況の中、コミュニティ・スクールが発足すれば、もっと地域の力をお借りして効
率的にできるのかなと思
います。

他に構想段階ですが、ノー残業デーを導入できればというお話がありました。先生の働き方
をシミュレーションしてみますと、朝の打ち合わせから、朝のホームルーム、授業、給食の配
膳や後片付け、グラウンドに出ている子どもたちの状況を見ること、その後は、午後の授業、
清掃、帰りの会、部活動指導、下校指導、そしてその間に保護者対応があります。

そのような中、業務改善、担当改善、組織風土改善の3つが働き方改革をすべきところだろ
うと思
います。ICTの活用により、業務改善と、若干ですが担当業務の環境も変わってくると思
われます。そして組織風土ですが、これもICT推進となってくれば変わってくるのではないでし
ょうか。これからは、まず、この3つに絞って働き方改革を進めていかなければならないかな
と思
います。

豊島区の事例ですが、ある私学が働き方改革を進めています。私学の働き方改革というのは、
まず労働基準監督署の改善命令があります。先生たちが長時間労働している、部活動の指導を
しているが時間外手当が支払われていない、といったことを労働基準監督署に訴えます。労働
基準監督署は、その学校に監査に入り違反があれば改善命令を出します。私学は私企業と言わ
れていますので、公立と比べ働き方改革が進んでいる。しかし、私学は生徒を集めなければな
らないので、土曜授業や部活動、特色ある修学旅行を作っていかななくてはいけない、補講もし
なくてはいけない、生徒募集の観点あるなかで、これらを充実させていかななくてはならず、先
生たちの負荷が強まっていくこととなります。

一方では、働き方改革が進められています。そのため、ICTをフルに活用していくことが私学全体の方向となっています。ウェブ上での出退勤の管理、これは自分のスマホからも入力でき、どこにいても入力が可能です。教員にも一人1台タブレット端末が配布されており、朝の打ち合わせでは、朝の7時30分から8時の間にタブレット端末に連絡事項が配信されます。これはペーパーレスとともに、細かくスケジュールが確認でき情報が共有できます。これにより朝の打ち合わせがなくなり、一つの業務改善となります。

さらに、新しい業務システムを構築していく取組みがあります。成績証明書、卒業証明書、在籍証明書などは事務局においてウェブで発行します。生徒の情報は出願した段階で全て入力され、入学した生徒だけを整理しております。これで一元管理ができています。成績は教務で入力され、模試、資格は全て入力されております。これは個々の部署で入力されているので、これを一体化させていこうという取組みが進められています。

私学で目指しているのは「協働の校務」、「用務の効率化」、「文章や情報の共有化」です。この推進により教員に若干の時間が生まれます。生まれた時間を教員の資質向上に活用する取組みもあります。先生たちに配布されているタブレット端末に、企業が出しているアプリがインストールされており、これで教育の最新情報がすぐに確認できるとともに、各学校の動画を視聴することができるなど教員の資質向上に役立つものとなっています。

このようにICTを活用しながら働き方改革を進めていくのが大切ではないかなと思っております。

中崎町長) ありがとうございます。幅広くお話いただきました。導入についてのお話、それから総論的なお話がありましたが、お話の中ではICTは働き方改革にとっても重要であるということですね。

それでは、次に曾田委員にお願いします。

曾田教育委員) 私は団塊の世代の一人です。今、私が育った時代では想像もつかないような新しい働き方が始まっているように思います。例えば、午後3時で終わってしまう会社があったり、会社の指示命令がまったくない会社があったり、海外で1年間自由に遊んでいろんな体験をしてこいという会社があったりと、想像しないようなことが現実にあるわけです。

そのような中で、これからどうしていけばよいかということを考えますと、新しい考え方を手に入れるにはそれ相応の能力やスキル、考え方が求められるだろうと私は考えております。

教員の働き方改革、教育のデジタル化に対応するには、というテーマですが、このテーマを見たときに悩みました。運よく12月17日に知人に紹介いただき、オンラインで2つほど関係する講演を聞かせていただきました。本日はその報告をもって発言に代えさせていただきますと思います。

一つは、茨城県の石岡特別支援学校の富山比呂志先生のお話です。石岡特別支援学校は、令和元年に開校した3年目の学校で、ICTをフル活用し、小中高とあります。コロナ禍により、学校の交流が滞ることもありました。反対に発展することもありました。コロナが不幸と

思う前に「コロナを利用すること」も大事ではないかともありました。

様々なデバイスやプリンターをネットワークに接続するなど、多くの苦労があったようですが、そのような中、3年目にして全国的に有名になるということは大きな工夫があったと思います。講師の話では、生徒の実態やニーズに合った教育を中心に行われたということです。自分にあったものを使うということは特別支援学校ではあるようですが、ICTもそれぞれの多様な方向性がありますので、それをどのように使っていくのか個別の指導計画の中に記録していくのもあったかと思います。日本で唯一のICTの評価をさせていただいているということで、自信をもってお話していただいております。

もう一つが、愛媛県松山市の市立椿小学校の石田先生のお話です。こちらは学校の業務や授業において、ICT活用に悩む先生のための先駆者から学ぶトライ＆ラーニングセミナーというお話でした。今のデジタル化の時代では、長年の教師の勘や経験だけではできない仕事が多くあります。心のやすらぎ、心を深めるにはどうしたら良いかという教育も入ってきます。なかなか人間味のある教育をされていると思いました。やはりデジタル化とはいえども、「心」がないと思うようにいかないという、私なりの理解であります。

中崎町長) ありがとうございます。このようにICTを教育の場に導入しておりますが、今一度、教育大綱にあります「いのち」・「こころ」に戻る大切さ、先生方が多くのことに忙殺されている状況だからこそ、ICTを活用しつつも子どもたちの将来のためにも、教育理念である「知力・体力・共感力」に、改めて取り組んでもらいたいというご意見をいただきました。

ではトーリー委員、お願いします。

トーリー教育委員) 私も急に加速していったGIGAスクール構想など、教育が過渡期になって変わってきたなど、この1・2年ものすごく実感しています。諸外国では早くからタブレットを教育に導入しており、日本は遅れてスタートしているため、その分、急に加速していると思っています。これからの時代を見据えてもどんどんデジタルが進んでいきますので、行った方が良いとか、やるべきかではなくて、やらざるを得ないだろうと思っています。

活用方法ですが、教育の現場でも「いかに負担をなくすか」ということが焦点だと思います。授業等で活用するにもあくまでツールであり、基本は対面です。これはいくらデジタル化が進んできても、本来そうあるべきではないかと強く思います。大学などもオンライン化が進み、対面講義が少なくなっておりますが、義務教育の場において、子どもたちの人間力をつけてもらう時に接した大人、つまり先生方とその教育というのは、その子をつくり上げるうえで基礎になると思います。

教育の基本は対面だと考えますが、デジタル技術もうまい使い方はあると思います。例えば、理科の実験では復習の意味で映像を見せるなど、さらに理解につなげていくこともできるでしょう。ほかにも、自分たちの足ですぐに回れない世界のことを映像で見せるというのもできると思います。ただ、先生方も凝ってしまって、教材を作ることに一生懸命になりすぎ、それで時間を取られるようなことになれば本末転倒だと思いますので、基本を持ったうえで、既存の

ソフトで優秀なものがあればどんどん活用してもらえれば良いと思います。

これからの時代、プログラミング教育なども入っていくので、今後は電子機器が苦手な使い方がよくわからないという先生も減っていくと思いますが、現在は得手不得手がある先生がいると思います。デジタルに弱い先生は研修などを行っていく必要があると思います。そういった時間をとることも急速に進めるのではなくて、きちんと段取りを踏みながら進め、慌てずに研究をし、ゆくゆくは子どもたちに先生と向き合える時間を確保していただきたいと思います。

一斉休校のようなことがあれば、タブレット端末を使わざるを得ないときもありますし、今よりもさらに活用しなければならないときもあり得ます。そのような状況も考え、定期的にオンライン授業をいれるのも必要だと思います。1か月の中で何コマかオンラインの授業にしましょうというのも必要だと思いますが、やはり「対面」があつてこそだと思います。あくまでも人が基本だという教育を大磯町では行ってほしいと思います。

中崎町長) ありがとうございます。確かに、トリー先生がおっしゃった人間形成が行われる小学校・中学校のときこそ、対面性の必要性というのはあると思います。

では、本日欠席しておりますが、新しく教育委員になられた末續委員からビデオメッセージをいただいています。

末續教育委員) ※ビデオメッセージ

こんにちは。教育委員の末續です。今日は残念ながら、どうしても外せない用事で出席できないため、ビデオメッセージという形で参加させていただきます。

今日は教育のこれからのデジタル化によって、いろんな問題や課題が出てくることについて、自分なりの考え、経験も含めて発言させていただきます。

私自身、現役選手として走っています。その傍ら企業や学校において、様々なジャンル、世代の方と触れ合いながら社会でお仕事をさせてもらっているうえで、最近のコロナ禍の一つの流れからデジタルというツールが加速しまして、対面での仕事というのがなくなってきていることもあります。

しかし、個人的には対面で仕事することや、人と触れ合うことが好きなので、そういった面で、デジタル化は非常に効率的ではありますが、コロナ禍から2年ほど経った今、当初のオンラインの需要からすると、今度は対面の依頼、直接来て話してほしい、動きを見せてほしいという依頼も増えてきています。このことは全国的に言えることで、私自身の生活の中で感じている一つのものであります。実際には、今、日本、そして世界はオンラインを急速に導入しようとしています。基本的には向かっていく方向というのはオンラインの割合というか、フェイス・トゥ・フェイスという基本的な人間同士の関わり合いの中にどう組み込んでいくのかというのをまずは導入しているかなという印象はあります。

学校教育でもデジタル化ということで、生徒一人ひとりにタブレットを配りデジタル化が進み、今度は先生と生徒の対面というのがなかなか難しくなってくる。その中で自分自身が感じるのが、やはり子どもというのは私たちが見ている以外のものを見ているところもあるので、

教育というのは先生と生徒だけで成立するものではないので、やはり大磯町が教育の基本理念としている「いのち」と「こころ」、生徒の心が動く環境づくり、ないしはオンラインとの向き合い方を大磯町全体の教育の中で考えていくべきではないかと思います。

私自身もスポーツを通して子どもたちとデジタルとリアルの2つで付き合っていく中で、何か大磯町の教育に生かせる一つのツールというかアイデアがありましたら、今後も随時提案させていただきたいと思います。

中崎町長) ビデオメッセージを皆さんに聞いていただきました。今日は出席していただくことはできませんでしたが、ご自分の経験の中で今のようなコロナ禍であっても「人と人の触れ合い」が大切であるというお話でありました。

では、教育長お願いします。

熊澤教育長) ICTの活用という大きな流れが起きていますが、教員の働き方改革というよりは、子どもの学び方改革になってきていると思います。今の子どもたちは生まれたときから携帯電話があり、一人1台ゲーム機を持っている、タブレットで遊べる、外で駆けずりまわらなくても過ごせるという環境の中で育ってきているので、ICTへの対応力は教員の比ではなく、子どもたちはすぐに対応できてしまうでしょう。なので、専門的に教える人がいればより多くのことができると思います。

デジタル技術を活用することで、子どもたちにとってどんなことが可能かという、まず一つ、例えば学校が楽しくない、不登校になってしまう場合など、大きな支援が必要になってくるのですが、GIGAスクール構想はこのような課題に対応するには大きなツールになります。家にいる子どもたちにも発信できるということも含めて、一人1台の端末を使って主体的で対話的な深い学びもできる状態になっています。そして、個別に最適な学びとあるのですが、協同的な学びに繋げていくということが現実にはできるようになってきているというのは確かです。

もう一つは、世の中が急速に変わっています。今の職業の半分がなくなると言われているなど、子どもたちが大人になった10年、20年先の社会では、今の社会と全く違うことばかりでしょう。

このGIGAスクール構想によって、子どもたちの学びを広げ深めることにつながっています。今後、社会を作っていく子どもたちが、作り手となる子どもたちを育てていくため、このデジタルというものは欠かすことのできない、そういう時代に来ているということも事実です。

教育の質を落とさず、保護者や社会のニーズに応えるという教育に課せられたもの、これを実現させるのは至難の業です。

国は、私が教員時代に様々な改革を実施してきました。選択授業や、週5日制、ゆとり教育の推進など、改革のテンポがとても速い時代でした。一方、子どもたちはそんなに変わっているわけではなく、学校も大きく変わったわけでもありません。学級的人数が少し減った、空調が入った、夏休みが少し短くなった、英語の授業が始まったなど、そういう変化はありますが、学校のシステム自体は大きく変わったわけではありません。

しかし、ここから先はデジタル技術により大きな変化があるでしょうし、社会全体が変わるので学校も変わらざるを得ない、そういう時点に来ていると思います。この10年間で調べてみますと、教員はどちらかというと働き方改革に逆行するような、勤務時間が増えてしまっているところがあります。今の時代、社会全体が落ち着いており、学校自体があまり荒れていないので、昔と比べてトラブルで夜中に子どもの対応をするといったことは10年間で減少していますが、増加の理由としては様々で、先生は若い職員が非常に増えてきていて、先生の中でも指導が思うようにいかない、さらに小学校も中学校も授業時間が増えていきます。中学校では、部活動に関わる時間は増える一方です。成績処理などの庶務は、デジタル技術が進み、時間が短縮されているように思いますが、意外に10年間のトータルでは増えてしまっている状況です。極端に言えば、中学校の部活動指導を止めたら相当時間数は違ってくるでしょうが、子どもとの触れ合いの部分は無くせない、綱引きのような状況です。

では、何を減らしていくべきかということ、まず会議だと思えます。先生たちは日中、会議を行う時間は取れませんので、どうしても時間外になってしまいます。会議は校長が2回を1回にしようといえはできますし、先ほど濱谷委員がメールでも伝わればそれで十分とありました。もちろん、うまくいかないことがあるかもしれない。しかし、ペーパーレスが進み、デジタル技術を有効に活用することで、そして勤務時間内での対応が可能になれば働き方改革に直結するでしょう。

教員自身が業務改善していかななくてはならないことはたくさんあるでしょうし、それを助ける私たち行政はどのようなことをしなくてはいけないのかと考えます。スクールサポートスタッフを配置することで、先生が多少なりとも負担に思っていた掃除や給食の指導、授業準備で印刷などをお願いできるというのは助かっていると思います。負担の中で一番大きいと思われる中学校の部活動ですが、外部指導者が責任をもってできる、中学校体育連盟の大会に先生が引率しなくてもよいというようなことがあれば、変わる可能性があります。登下校は地域の方にご協力いただいている部分もありますが、部活動に関しては、その動きはないのでなかなか厳しいでしょう。また、お金を集めることも大変です。小学校では給食費がそうです。先生がやるのは大変なので、公会計化が進めばありがたいです。

私たちは、少しでも学校の働き方改革に協力したいと思っていますし、デジタル化も含めて学校がより先生にとっても働きやすい場所になってほしいと思っています。

中崎町長) 教育長のお話で教員が大変な状況というのはわかりました。

あくまでICTというのは一つの道具であり、大切なことはやはり心です。その先進事例として曾田先生から2つ示していただきました。しかし、ICT化が進んでいく中でも行っていかなくてはならない、業務の問題、環境の問題、また組織風土の問題など、各先生からお話がありました。総合教育会議は決定事項を決議する場ではありませんが、町としましては、皆さんの意見をいただきながら、子どもたちのために全力を挙げて取り組みを進めてまいります。最後のパワーポイントにあります、地域と家庭と学校が一体となって子どもたちを育てる、これを目指して頑張っていきたいと思っています。

先生方でお互いの意見を聞いた中で、ご意見あったらお願いします。

曾田委員) 人口減少が思ったよりも早く進んでいるように思います。例えば、子どもが少なくなることにより学校が減少する、銀行の減少、老人ホームが少なくなるなど様々です。すぐそこまで来ているように思います。そのような人口減少問題に対して大磯町はどのように体制ができているのか、大磯町は減少ではなく、むしろ少し増えていると思います。

大磯町は住みやすいまちですから、他は人口減少が進んでいますので、このようなことも考えておかないと、この教員の働き方改革もうまくいかないと思っております。

中崎町長) 人口のことですが、先般の国勢調査の結果が出まして、前の5年間から100人弱増加しております。総合計画では大磯町は人口が減っているという計画は立てておりますが、そうならないために取り組んでおります。

トリー委員) 大磯町は教育の町を謳っていますので、子育て世帯が増えていると思います。その中で大磯町の広報的な活動、若い人たちの力でアイデアを入れていくと良いのではないかと思います。決まった形のPRではなく、若い人は驚くような発想しますので、募集を掛けて、町の魅力をわかってもらえるように考えてみてはどうかと思います。

中崎町長) 今、トリー委員からもありましたが、若い人から聞くということについて、議会からも指摘されておりますし、町はその点に関しては遅れているので、1歩踏み出した形で行っていきます。

濱谷教育長職務代理) 保護者に向けて、ICTによって働き方改革をどう進めていくのかという説明があっても良いと思います。コロナ禍において行事の見直しなども行っている中で、「先生が楽をしたいのですか」という言葉が出たりしているのも事実です。学校はICTを導入することによって仕事を削減しながら、余裕のた時間は子どもたちへの指導に向けていくことを、保護者に理解していただくことも必要かと思えます。

また、先生たちの現場に即する話ですが、職員室が従来の縦型、いわゆる管理職が隅にいて先生たちが縦型で座っています。コロナ禍なこともありますので、コミュニケーションスペースを作る、あるいはリフレッシュスペースを作って、そんな中でICTのタブレット端末をどう使っていくか、教科の中でどう教材を作っていくのか、こういうことは普段から話ができるような職員室を作りたいです。

中崎町長) 職員室の机の置き方ですね。

時間もありますので2番目の議題を終わりにしたいと思います。これについては取りまとめましてご報告したいと思います。

それでは、一旦事務局に戻します。

【協議事項（3） 児童生徒の事故等の状況について】

※協議事項「（3）児童生徒の事故等の状況について」は非公開にて協議を行ったため、議事録を削除しています。

中崎町長） どうもありがとうございました。これで、本日の協議事項を終了しました。
それでは、進行を事務局にお返しします。

政策係長） 中崎町長、ありがとうございました。
それでは、非公開の協議事項が終了しましたが、傍聴される方については、皆さんお帰りになられたとのことですので、このまま会議を進めさせていただきます。

政策係長） それでは、「4. その他」に移らせていただきます。委員の皆さんから何かありますでしょうか。ないようでしたら、事務局から1点、ご連絡させていただきます。

政策課長） それでは、今後の予定をお知らせします。
今年度、令和3年度の総合教育会議については本日で終了とさせていただきます。次回の会議につきましては、令和4年度に入りまして6月か7月頃を予定しております。
次回のテーマ、日程等は後日改めて調整させていただきます。事務局からは以上です。

政策係長） それでは、これもちまして令和3年度第2回大磯町総合教育会議を終了いたします。本日は長時間にわたり、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

(以上)